NAFIPS' 92 報告

廣田 薫*

1. 会議概要

1992 年度の北米ファジィ学会 NAFIPS (North American Fuzzy Information Processing Society) が、1992 年 12 月 14 日から 12 月 17 日まで、メキシコのプエルトバヤルタ (Puerto Vallarta) メリアホテル (Melia Hotel) で行われた。

プエルトヴァヤルタは、カンクンと並んで有名な太平洋岸のリゾート地である。ホテルの目の前には大きなプールと専用ビーチがあり、パラセーリングや水上スキーを楽しむことが出来る。12 月とはいえ日本の夏に近い気候であった。参加者は 70 名程度で、大半がアメリカ人であり、日本からは筆者と菅野会長の 2 名であった。ようするに、リゾートの 5 星ホテルで、いつもの顔見知りの仲間と和気あいあいとリラックスして過ごすことが出来たということである。

写真 1 ホテル入口の歓迎幕

写真 2 会場のメリアホテル内

初日の 14 日はチュートリアルで、プログラムは以下のとおりである。

- Introduction to Fuzzy Sets and Approximate Reasoning (R.Yager, Iona College)
- Fuzzy Intelligent Information System (M. Zemankova, NSF)
- Fuzzy Logic in Expert System and its Application for IE/OR/MS (I.B.Turksen, Toront Univ.)
- Fuzzy Control and Its Applications (菅野道夫、東工大)
- Fuzzy Hardware Design and its Applications (廣田薫、法政大)

そして 15 日から 17 日までが本会議であり、一般講演は 2 セッションパラレルで行われた。

15 日の朝は 8 時から簡単なオープニングのあと、J.Bezdek 西フロリダ大教授のプレナリレクチャ Clustering and Classification in the 1990 s: Algorithms for all Seasons が行われた。その中で、過去の発表をサーベイしないで、新しい成果のように自分の論文を発表する者がいて困ると、具体例を幾つか挙げて批判していたのが印象的で

* Kaoru HIROTA
法政大学 工学部

あった。その後で、Fuzzy Theory and Systems, Image Analysis の並列セッションが行われて昼食休みに入った。午後には、Adaptive Learning, Applications の並列セッションのあと総会が行われた。総会の内容は後で、もう少し詳しく報告する。6時から Tropical Bar で軽くアルコールで喉を潤し、7時から海岸の円錐型かやぶき屋根のレストランに場所を移して、トロピカル風のムードミュージックの生演奏を楽しみながらバンケットに移った。バンケットには、同伴女性や子供も招待され、約 70 名ほどの参加者を数えた。

18日は、やはり8時からP.Bonissone 博士(G. E. 社)のプレナリレクチャ Fuzzy Logic Control: From Development to Development (with an Application to Aircraft Engine Control) で始まった。タイトルからその内容に期待して望んだのであるが、実際の話はファジィ制御の講習会のような内容でしかなく、がっかりした。その後お昼までに、Decision Analysis, Applications 及び Decision Analysis, Knowledge Representatin の2つの並列セッションが行われた。午後1時から Control Systems, Adaptive Learning の並列セッションのあと、夕方5時から NAFIPS の理事会が行われた。

19日は、すべて並列セッションのみであり、午後2時ころになってようやく到着が遅れていた会議の論文集(全2巻)が配付された。午前中は、Decision Analysis, Fuzzy Theory & Systems 及び Database Management, Genetic Algorithms/ Optimization の2つの並列セッションが、午後には Neural Networks, Fuzzy Theory & Systems が行われ、すべての行事が終了した。ただし最後のセッションなどは聴講者が10人以下になってしまい、寂しいかぎりであった。

2. NAFIPS の運営の現状

15日夕方の総会に出席して、NAFIPS の運営の現状をある程度把握することが出来たので、以下に報告する。

写真3 レセプション

写真4 バンケット

まず、NAFIPS の正会員総数は159名ということで、余りの少なさにびっくりした。NAFIPS の会誌 IJAR (International Journal of Approximate Reasoning アイジャールと発音している) の編集長は、J.Bezdek (U.of West Florida) から P.Bonissone (G.E.社) に変わった。J.Bezdek が、IEEE の Trans.on Fuzzy Systems の編集長になるため、兼務できなくなったのがその理由である。

1992年度のNAFIPS 功労賞が次の4人に贈られた。NAFIPS'92の実行委員長のR.Lea (NASA) および副実行委員長のJ.A.Villarreal (NASA), S.G.Martinez (Instituto Tecnologico de Morelia, Mexico) の3名、およびIJARの編集長であったJ.Bezdekに表彰状が贈られた。

1993年度のNAFIPS'93は、8月23日から25日まで、ペンシルバニア州のAllentownにあるAllentown Hilton Hotelで行われることになっ

た。論文発表の申込みは、3月1日までに1ページのアブストラクトを、実行委員長の Luisa McAllister (Moravian College, Bethlehem, PA) 教授まで送ればよい。

NAFIPS の理事会は、留任の L.Hall, R.Lea, M.Zemankova, J.Keller, D.Krt, J.Buckley の6名に、R.Yager, I.B.Turksen, J.Yen の3名が新任として選出され、合計9名の理事、および会計の T.Whalen を加えて計10名で運営される。そして、会長は3年の任期ということで J.Keller (Univ. of Missouri) が、1993年の NAFIPS'93 まで努めることになっている。

3. 報告の締めくくりに

出発の数日前に、水本編集長から、NAFIPS'92の報告を著者が責任を持って(すなわち誰かに押しつけるか、それが不可能なら自らが書くということ)してほしいという内容の e-mail を、うん悪く見てしまった。不幸にして、現地に到着してみても、日本人は菅野会長と著者の2人だけであることが分かり、しかも予想どうり会長には断られてしまったため、自ら執筆する事になってしまった。現在12月19日朝9時(日本時間)、太平洋上空である。東京には20日に1日だけいて、また21

日には別件で海外に出かけることになっている。よって、印象がなくならないうちにかたずけることにした。最低限の情報のみであるが、NAFIPSの様子少しは分かって頂けたのではないかなと思う。もちろん会期中には、インフォーマルなミーティングが盛り沢山あった。たとえば、毎晩深夜まで、菅野会長の部屋で数名のパネリストが(テキーラで喉を湿らしながら)熱心にデスカッションを繰り広げ、公式文書にはなじみにくいしかし重要な情報が判明したりして議論が白熱した。また会期中には、やはり公式文書にはなじみにくい種々の出来事があった。(もちろんそれらは、すべて善意による真面目な内容である。)関心のある方は、直接会ったときにでも問い合わせていただきたい。恒例により、一応連絡先を記して筆を置こう(ポケットワープロを閉じよう)。

[問い合わせ先]

〒184 東京都小金井市梶野町 3-7-2
法政大学 工学部計測制御専攻
廣田 薫
☎&📧: +81-423-87-6241
e-mail hirota@hrt.hosei.ac.jp